



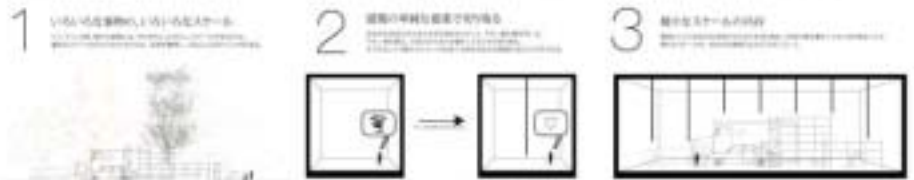
おおきな空気の切り取り方。



石黒 泰司 (いしぐろ たいじ)
東京理科大学 理工学部 建築学科



おおきな空気の切り取り方。



建築をつくることは、おおきな空気のかたまりを切り取ることである。

そして、その正しい切り取り方とは、わたしたちの生きる環境に混在するさまざまな事物それぞれに適切なスケールを与えてあげることだと考えます。すると、今まで人間主体であったり、植物主体であったり、といった異なる主体が分け隔てられるのではない、たくさんの主体とたくさんのアクティビティが共存する環境が生まれます。そしてそれは、疲弊した建築のプログラムとビルディングタイプを変えていききっかけとなるのではないかと考えています。

そんなことを考えて、モノのアクティビティと人のアクティビティを共存させる、あたらしいショッピングのための環境をつくりました。



講評

倉庫型店舗という素っ気ない業態が都市生活者に受け入れられるようになって久しい。しかし違和感が解消されたわけではなく、スケール感覚に麻痺しただけである。本作の狙いは、大規模物販店の空間感覚を人の手に取り戻すことにある。この課題を端的に解決したいなら、従来の計画手法を否定し、より人間に近いスケールの物販空間を示せばよい。そうすれば設計意図は容易に伝わった。だが作者は、あえてそれを避け、物販業における典型的な動線・ゾーニング・VMDなどの様態を受容した。そしてプライマリーストラクチャーの提示という、一見消極的な作業に徹した。まるで美術館でもつくるかのように。結果、商品特性や顧客像に従属しない商業空間を成立させることに成功した。だけでなく、普遍的消費行動に対するアイロニカルな批評ともなっている。

(審査委員：矢野 裕之)